

## 中村 清先生記念号によせて

中村清先生は一九三七年三月に早稲田大学専門部商科を卒業されたのち、佐久間工業株式会社に入社、以後五年にわたつて経理実務の経験を積みました。この間において、経理実務で解決を迫られた多くの問題を理論的に体系化することを決意された先生は、一九四二年二月に敢然職を辞し、同年四月より三年有余にわたり、早稲田大学商学部会計学研究室において研究生生活を送られました。一九四五年九月に早稲田大学附属専門学校講師に任ぜられました。同年十二月に本学に迎えられ、経済学部予科講師兼立教工業理科専門学校講師に就任されました。戦後の学制改革によって本学が一九四九年四月に新制大学として再発足するに際して、先生は経済学部を籍を移されましたが、本学に就任以来一九八二年三月に定年退職されるまで、実に三六年の長きにわたつて経済学部の教学の発展を支えてこられました。

先生は経済学部において簿記、会計監査の講義を担当されて数多くの学生の教育に当られるかたわら、ゼミナール、大学院における研究指導によって優れた実務家、研究者の養成に尽力してこられました。大学の簿記教育において、ともすれば無味乾燥な記帳技術にすぎないと扱えられがちな簿記が、企業経営の実態把握ひいては経済動向の分析のためにいかに重要な手段であるかを理解させることは、決してたやすいことではありませんが、先生の長年にわたる豊富な実務の経験と理論的研究の成果に裏打ちされた練達の講義は、きわめて多くの学生をして簿記・会計への

関心を強めさせました。先生の講義内容の水準の高さと簿記教育の普及にたいする功績とは、先生が文部省教科書用図書検定調査審議会調査委員として簿記教科書の検定を委嘱されたことによって、社会的にも認められたところであります。

先生の学問的業績は会計監査論の領域にあります。戦後の公認会計士制度の導入と近時における企業の社会的責任に対する関心の高揚とに伴ない、監査制度の強化と拡充発展が図られてきましたが、この間にあって、先生は財務諸表監査を中心に公認会計士が行なう監査の責任と会社経営の責任との異同を明確にした二重責任論を展開されました。公認会計士の責任を明確化することによって、その監査証明の意義と限界とを明らかにされたことは、わが国の監査論研究の発展に貢献したものであり、実業界における監査制度の強化と近代化に大きな寄与を果したものであります。

先生は本学経済学部教授として以上のようにわが国の簿記教育の普及と監査制度の発展に尽力されるかたわら、長年にわたって学生就職委員として大学と企業をつなぐ重要な業務を担われるとともに体育会自転車部長を勤められました。とくに東京オリンピックをまえに日本学生自転車競技連盟会長に就任され、大きな成果をあげられました。このように教場の内外において親しく先生の薫陶を受けた学生はきわめて多く、その温和にして高潔な人格に敬服して、いまだに先生を慕って相集う者も多くを数えています。

一九八二年七月、立教大学は経済学部の発展と本学の隆盛に寄与された先生の教育上のご功績にたいして名誉教授の称号を贈りました。

いま先生の定年退職を迎え、先生のご功績をながく記念するために、本号をもって先生の記念号といたします。こ

れからも先生がますますご壮健にご活躍されることを願ひ、これまでと渝らぬご助力を賜わりますよう願ひております。

一九八三年六月

経済学部長 高橋 昭 三